

しものせき Port News

国土交通省九州地方整備局下関港湾事務所広報誌 しものせきポートニュース

- Contents -

下関港本港地区

岸壁(-10m)(改良)整備概要
みなと歴史探訪～細江ふ頭

下関港海岸

7工区整備概要(黒門地区)
20・21工区(山陽地区)

トピックス

港の見学会を行いました
下関市立関西小学校
下関市立大学経済学部
下関港湾協会70周年記念式典の開催



L型ブロック据付状況(20工区)(令和3年12月撮影)



完成した下関港海岸(20工区)(令和4年3月撮影)

下関港本港地区 岸壁(-10m)(改良)整備概要

下関港本港地区細江ふ頭の国際RORO船航路(蘇州下関フェリー)が利用する岸壁(-10m)は、供用後49年(改良後19年)が経過し老朽化が進んでいます。また、地震災害発生時の食品・飲料水等の物資の緊急輸送機能が求められています。このため、令和4年度(2022年度)より岸壁の老朽化対策及び耐震強化岸壁※(緊急物資輸送用)の工事に着手します。

※ 大規模地震が発生した際に、発災直後から緊急救援物資の輸送や、経済活動の確保を目的とした、通常岸壁よりも耐震性を強化した係留施設のこと。

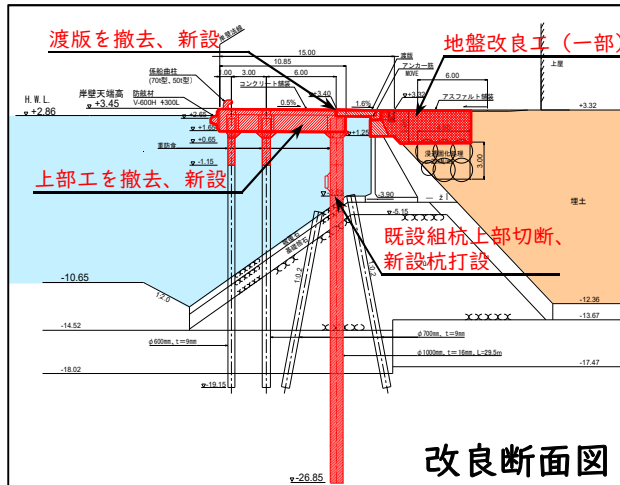
<岸壁の老朽化状況>



位置図

<工事のポイント>

細江ふ頭では関釜フェリーが週7便、蘇州下関フェリーが週2便発着し、荷役作業や搬送車両・シャーシで混雑しています。そのため、下関市や港湾利用者と動線や安全性等の協議を行いながら工事を実施します。

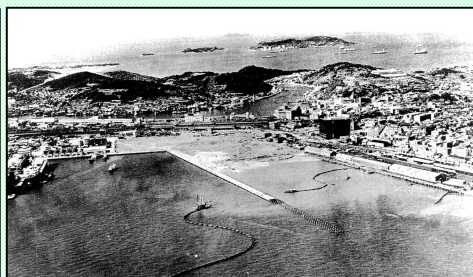


みなと歴史探訪 - 細江ふ頭 (日本初の国際定期フェリー航路の就航)

関釜航路は、1905年に山陽汽船による航路就航に始まり、翌年には国有化し国鉄関釜連絡船となりました。当時は岸壁の水深が浅く、乗客や荷物を小さな船に乗せて運んでいましたが、1914年に新たに関釜連絡船棧橋が造られ、直接接岸が可能になりました。関釜連絡船の輸送人員は1942年には305万人とピークに達し、1945年の終戦により終焉を迎えます。戦後、1965年の日韓基本条約の締結、1967年の日韓経済閣僚会議を契機として航路復活の機運が高まり、関光汽船(株)などの出資により関釜フェリー(株) (社長入谷豊州氏) が設立され、1970年に日本初の国際定期フェリー航路として復活します。

中国航路は、1978年の日中平和友好条約の締結を契機に、1980年日中友好の船が不定期航路として青島港との間で就航を始め、その後1998年オリエントフェリー(株)が継承し定期航路化(2015年運航休止)、2005年には上海下関フェリー(株)が就航、2006年には発着地を上海港から蘇州太倉港へ変更し、2014年には社名を蘇州下関フェリー(株)に変更しています。

両航路が発着する細江ふ頭は、1967年に関釜連絡船棧橋の前面の埋立てが始まり、岸壁(-7.5m)が関釜フェリーが就航した1970年に、ふ頭全体が1973年に、下関港国際ターミナルが1988年に完成し、現在は関東、関西各地からリードタイムが短い貨物が集まる国際複合一貫輸送の一大拠点となっています。



水際線の変遷 (1914年(地図)と現在(白黒写真)の比較)

工事中の細江ふ頭

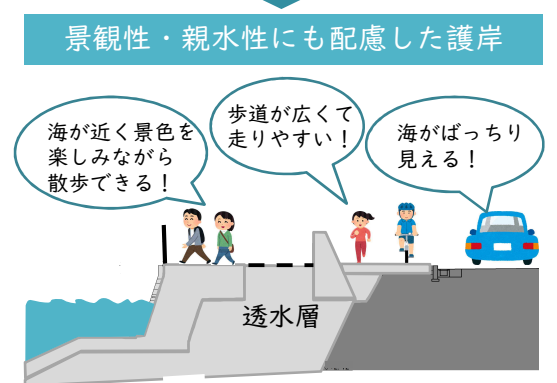
フェリー関釜 初就航 (1970年)

下関港海岸

ちょうふ くろもん

7工区整備概要（長府黒門地区）

令和4年度(2022年度)より、下関港海岸の長府黒門地区(7工区)の整備に着手します。この地区は国道9号沿いに位置し、関門海峡を望む景観が良いことから、台風による高潮・越波への防護を強化するとともに、できるだけ眺望を阻害しないよう護岸の高さを抑え、歩道を広げることによって、景観性・親水性にも配慮した構造を採用しています。



20・21工区（山陽地区）

令和4年(2022年)3月、下関港海岸20工区及び21工区の工事が完了しました。20工区では平成28年度よりブリヂストン下関工場の前面の護岸の嵩上げ工事を行い、隣接する21工区では令和2年度より陸上に胸壁※1や、陸閘※2を設置する工事を行いました。

20・21工区の完成に伴い、ブリヂストン下関工場の海側前面から東側に至る一連の防護ラインが完成しました。 ※1 海水の浸入を防止する壁 ※2 人や車両が横断できる開閉可能な門扉



位置図

20工区全景

21工区の陸閘と胸壁

[利用者の声]

ブリヂストン下関工場では、世界の鉱山で使用される大型タイヤを生産しており、この工場がストップしてしまうと世界経済にも大きな影響を及ぼすことになるため生産を継続することが重要と考えています。

下関工場は操業開始から51年が経過し、1999年の台風18号では満潮と高潮の発生が重なり、工場内への浸水により、生産再開まで100時間を要する大きな被害を受けました。このような中、国の直轄海岸整備事業の実施により、浸水被害によるリスク低減の見通しが立ったことは、工場の生産を継続していく上で大変な意味があったと捉えており、2021年に下関工場の今後50年を見据えた設備投資(102億円)の決断に繋がりました。



株式会社ブリヂストン 下関工場 杉山武司工場長

3 トピックス

港の見学会を行いました。

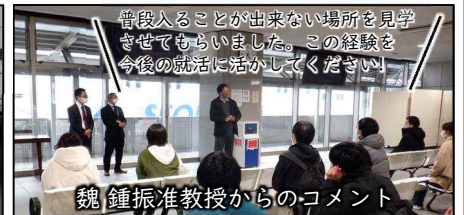
【下関市立関西小学校の4・5・6年生の皆さん】

令和3年12月3日、関西小学校の児童11名を対象に「みなと見学会」を行いました。児童たちは下関港の特徴や地域ごとの役割を学習した後、業務艇に乗船し、関門海峡沿いの下関・門司港の街並みや海岸保全施設などを海上から見学しました。児童の皆さんの目を輝かせて景色をみつめる姿や、元気に発言する姿が印象的でした。後日、「身近な所に重要な港があるんだと驚いた」「海にある物が、人の命を守ったり助けたりする大切なものだった」と心温まるお手紙を頂きました。



【下関市立大学経済学部の方の皆さん】

令和4年1月11日、細江ふ頭の下関港国際ターミナルで、下関市立大学経済学部国際商学科の「物流システム論」(魏鍾振准教授)を学ぶ学生16名を対象にみなと見学会を行いました。まず座学で、下関港の事業概要を説明した後、普段は入ることができないターミナルの立入制限区域内を見学しました。参加した学生のみなさんからは「港湾荷役の現場を視察できて興味が沸いた。物流・港運業界への理解がより深まった」などの声が上がっていました。



みなとの見学・学習しませんか？

当事務所では、「港の見学会」や「出前講座」を随時受付しておりますので、お気軽にお問合せ下さい！

下関港湾協会発足70周年記念式典の開催

令和4年2月25日、下関港湾協会発足70周年記念式典が下関グランドホテルで開催されました(参加者約60名)。式典では、功労者表彰等が執り行われ、国の各関係機関からの情報提供として当事務所長の古屋より事業の取組状況を報告しました。

その後、記念講演として、九州大学大学院工学研究院 海域港湾環境防災共同研究部門 杉村佳寿教授より「最近の港湾を取り巻く環境」と題した世界の港湾改革の動きや民間活用、カーボンニュートラルの動向等に関する講演が行われ、示唆に富み多岐にわたる講演内容に参加者は熱心に耳を傾けていました。



国土交通省 九州地方整備局
下関港湾事務所

〒750-0066 山口県下関市東大和町2丁目29-1
TEL(083)266-3291 FAX(083)261-1123
HPアドレス <https://www.pa.qsr.mlit.go.jp/shimonoseki/>

「海と港の総合窓口」
全国共通フリーダイヤル **0120-497-370**
受付時間:9:30~12:00と13:00~17:00(土・日・祝を除く)

ご意見・ご感想をお聞かせください。

